

岡村国和先生を悼む

経済学部長 倉橋 透

岡村国和先生が、2021年4月15日にご逝去されました。68歳とまだまだお元気で活躍いただけるご年齢でありました。教職員一同、悲しみに堪えないことでもあります。私も、先生の温かな笑顔がまぶたに焼き付いて離れません。心から哀悼の意を表します。

先生は、1952年、東京都にお生まれになりました。1977年に慶應義塾大学商学部をご卒業後、同大学大学院商学研究科修士課程に進まれ、1979年3月、修了されました。修士論文は「保険市場と消費者保護——保険の制度論と商品論をめぐって」です。同年4月からは、同研究科博士課程に進まれました。

1983年3月、同博士課程を単位取得退学されると、4月から広島修道大学商学部に専任講師として着任されました。同大学助教授を経て、1991年4月に獨協大学に助教授として着任され、1993年からは教授を務められました。

教育面では、熱心に、また温かく学生を指導されました。他大学の合同研究会など学生の学習機会の確保に尽くされ、学生に非常に慕われた先生でいらっしゃいました。先生の研究室には、学生が多く訪ねてきていました。先生の教育面でのご業績は、学生を通じ、今後も長きにわたり、我が国また世界の経済社会にあらわれていくものと思います。

学内の役職としては、経済学部教務主任、経営学科長、キャリアセンター長をお務めになりました。学外では、日本保険学会理事、厚生労働省労災保険の事業の種類に係る検討会座長など多数の役職をお務めになりました。

本誌は、研究紀要でありますので、先生の学問的なご業績については、特に詳しく触れたいと思います。先生は、共著・共編あわせて10冊の著書、学術論文17編、その他翻訳、学会・研究会報告など多数のご業績をお持ちです。本稿では、学術論文「公的年金をめぐる公正の概念について」『日本年金学会誌』（日本年金学会）第19号、2000年3月と基調講演をされた「人口減少時代に保険業はどう対応すべきか」慶應義塾保険学会公開シンポジウム2011年12月（「人口減少時代における保険業の諸課題」『保険研究』（慶應義塾保険学会）2013年5月）をとりあげたいと思います。

学術論文「公的年金をめぐる公正の概念について」『日本年金学会誌』（日本年金学会）は、「今日、給付削減と負担増をめぐる世代間の不公平問題、報酬比例部分の民営化論、あるいは基礎年金部分の税方式化などがさかんに議論されている。しかし、こうした議論の前にわれわれは公的年金の本質的機能に照らしつつ、福祉原理と保険原理の基本理念に則した形で公的年金をめぐる負担の不公平性や制度間の不平等問題を解決・是正していかなければならない。」との問題意識により、執筆されました。公正の概念として先生は、ロールズの正義2原理とセンの潜在能力に依拠されました。その結果、「公的年金保険が公正な制度として継続されるためには、その内部にある保険数理的健全性（第二原理＝収支相等の原則）の確保がまずもって重要な課題であって、その上で、保険数理的公平性（第一原理＝給付・反対給付均等の原則）が目指されるという、安全・確実策が事前に十分に検討されているべきである。」、そのために「貧困は金銭給付によってのみ効果的に排除されるという考え方を廃し、基本は拠出に耐えうる所得を労働によって得ることに置き、労働能力がありながらそれを活用できない者に対する支援を、金銭ではなく教育や就労機会の提供などの別形態をも併せて行う。ただし労働能力がない者に対する手厚い保護ができるよう、制度には公正の概念に基づくフリーライダーによる不正受給などの不正行為を徹底的に排除するシステムや、権利のある者が排除されないようなシステムを組み込む」との提言を示されました。超高齢社会となった我が国で、社会保険制度を維持するためには、先生の

バランスのとれたご提言がますます必要とされていると考えます。

「人口減少時代に保険業はどう対応すべきか」慶應義塾保険学会公開シンポジウム2011年12月の基調講演においては、「人の数が減るのだから、保険業にとっては市場そのものが縮小してしまうことが明らか」という基本認識のもとで、保険会社の基本戦略として「海外の保険事業への進出・展開」、「国内の保険事業の強化」、「事業の多角化」などをあげておられます。最後に、生命保険業の将来展望として、代理店など販売チャンネル「製販分離」等について論じておられます。今日、SOMPOホールディングスが、国内損保事業、海外保険事業、国内生保事業のみならず、介護・シニア事業、ヘルスケア事業、果てはデジタル事業まで進出しているのをみると、先生の先進性に瞠目するものであります。

先生の学問には、バランス、先進性が兼ね備わっていたと強く思います。

ご生前の獨協大学と経済学部へのご尽力に、改めて感謝の意を表するとともに、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。